

内田 そうですね。

自分の想像で多様性を設計すると危ない (矢内)

矢内 想像もつかないようなことを包摂していくのが多様性ではないか。自分の想像で多様性を設計すると危ないと最近すごく思っています。

内田 その通りだと思います。僕も理解と共感の上に共同体を築くという考え方には反対なんです。逆に、理解も共感もできない人だけれど、限定的なことについては一致できる人と共生できるし協働できるということの方がずっと重要だと思っています。それが集団の基本なんじゃないでしょうか。

よくわからない人たちが集まった共同体でなにごとかを達成した。その果実はみんなに分かち合った。でも、相変わらず横にいる人が何を考えているかはわからない。この人の行動原理が理解できないし、感情にも共感できない。でも、理解も共感もできない人間と、それにもかかわらずある場を共有して、あるタスクを協働的に達成することができた。それなら、その能力の方が他者を理解し、共感できる能力より、人間的能力としては質が高いんじゃないかと思うんです。理解と共感をまず確保して、そういう人たちでチームを作

って、それから事業に取り組む……という発想は、僕には非効率的に思えるのです。

矢内 その通りです。

内田 いまの中等教育を見ていて一番いやな感じがするのは、共感の過剰な強制ですね。小学生ぐらいまではけっこう面白かった子たちが、中高6年間を終わったあと、18歳になって大学に来るころには、本当につまらなくなっています。それは6年間にわたる共感度訓練が原因じゃないかと僕は思っています。

まず男女ともに、中学生ぐらいから、異常にやりとりが速くなる。打てば響くといった感じになる。でも、その反面、使う語彙がどんどん限定されてくる。イントネーションも、話し方も、表情や服装までも、どんどん、お互いに似てくる。相互模倣によって個体識別できなくなった子どもたちが打てば響く、ツーンと言えはカーというようなやりとりを超高速で行っている。その状態を、彼らはどうやら「コミュニケーションがうまくできている」ことだと錯覚しているらしい。波長が合わない人間とか、異論や違和感を表明したりする人間はコミュニケーションの妨害者として、ただちに弾き出される。

いま中等教育でいじめがすごく問題になっていきますけれど、いじめって、「異分子を排除する」というよりも「共感度を高めよう」という努力に起因するんじゃないかと思えます。みんなでもっとも一つになろうよ、みんな同じ感覚を持つようよ、それがすばらし

いことなんだよ、という同質化圧力が高まりすぎて、しだいに集団が痩せ細っていく過程で、それについていけない人が排除されてゆく。

そのメカニズムを駆動しているのはある種の善意じゃないかと思うんです。「変なやつを排除しよう」ではなくて、「もつともつと一体化しなければ」という善意。これがいま日本中に取り憑いている、何かすごく深刻な病のような気がするんです。

誰と結婚したっていいじゃない (内田)

内田 結婚する人がすごく少なくなっているでしょう。男性の生涯未婚率がいま、24・3%。男性の4分の1が生涯未婚です。この比率がますます高まっている。少子化の理由は、結婚しない人が増えているからで、結婚しないのは、たぶん結婚の前提に、理解や共感があるからだと思います。生涯にたった1人の理想の配偶者と出会って結婚しなければならぬというロマンチック・ラブ・イデオロギーが結婚を妨害している。

これ、まったく間違いだと思う。誰と結婚したっていいじゃないですか(笑)。どうせ相手はよくわからない人なんだから。100年の恋のつもりで結婚してみたら実際はなんだか全然わからない人だったということなんかよくあるわけですよ、結婚では。だったら